

# 令和3年度 研究計画

## 1 研究主題

### 学ぶ喜びを実感できる探究型の授業づくり

～ICT機器を効果的に活用して～

## 2 主題設定の理由

社会のあらゆる分野に情報化が浸透し、絶え間ない技術革新によって高度情報通信社会となった現代社会において、新たな情報や技術の習得が社会のあらゆる領域で必要とされ、重要性を増している。さらに、グローバル化や急激な少子高齢化による社会構造や雇用環境の変化により、将来の予測がより困難な時代となっている。このような現状においては、自らのしっかりとした考えをもち、相手に的確に伝え、不測の事態にも臨機応変に対応できる人材が必要とされている。今年度から全面実施された新学習指導要領においても、新しい時代において必要とされる、資質・能力(「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」「知識・技能」)の育成が重視されている。

本校は平成26年度からの2年間、県教育委員会から「小・中連携実践研究モデル事業」の指定を受け、小・中学校の円滑な接続を図る学習指導に取り組み、成果を上げてきた。引き出したい生徒の姿を具現化する手段として、自力解決と学び合いの時間の保障、ペアやグループでの話し合いを通じた確かな解決方法の探究などを取り入れ、その結果、生徒には課題解決の喜びを味わわせ、様々な考え方があることに気付かせることができた。

平成29年度からは、これまでの研究を踏まえながら「学ぶ喜びを実感できる探究型の授業づくり」を研究主題に掲げ、「『生活の場に生きる』と生徒が実感できるような課題設定の工夫」や「主体的・対話的で深い学びのための話し合い活動の充実」などを重点として実践を積み重ねてきた。これにより、生徒が意欲と必要感をもって学習に取り組めるようになったことや、学習のゴールを見通した上で、課題意識をもって取り組めるようになったことは成果と言える。しかしながら、学習したことを活用して考える力が育っているとは言えず、生徒の考えを広げ、学習の深まりを実感させることについて一層の工夫が必要であるという課題も見られた。探究型の授業づくりにはまだ、改善の余地があると考えている。

そこで、今年度は、1人1台端末環境を生かし、「探究型学習の基本構造」におけるそれぞれの過程において、ICT機器を活用していくことで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていきたいと考えた。ICT機器の活用は、学習の基盤となる情報活用能力の習得、「学習したことが役立つ」と生徒が感じ自己と関連させながら主体的に学習に向かえるような導入の工夫、自己の変容に気付き、深い学びにつながる振り返りの時間の保障など、これまで重視してきたことをより効率よく効果的に取り組むために有効であると考えている。

また、目指した言語活動の充実については、生徒が自らの言葉で積極的に話し合い、様々な見方や考え方を取り入れて表現する力の育成が課題である。ICT機器を活用した協働学習の中で、基礎的・基本的スキルの習得、話し合う視点の明確化、明確なゴールの設定、相手意識や目的意識を持った発表方法などを工夫することで、深い学びの充実を図り、生徒が他と関わって学ぶことの喜びを実感できるようにしたい。

## 3 研究の仮説

研究主題に対応する研究内容及び研究の仮説は、次のとおりである。

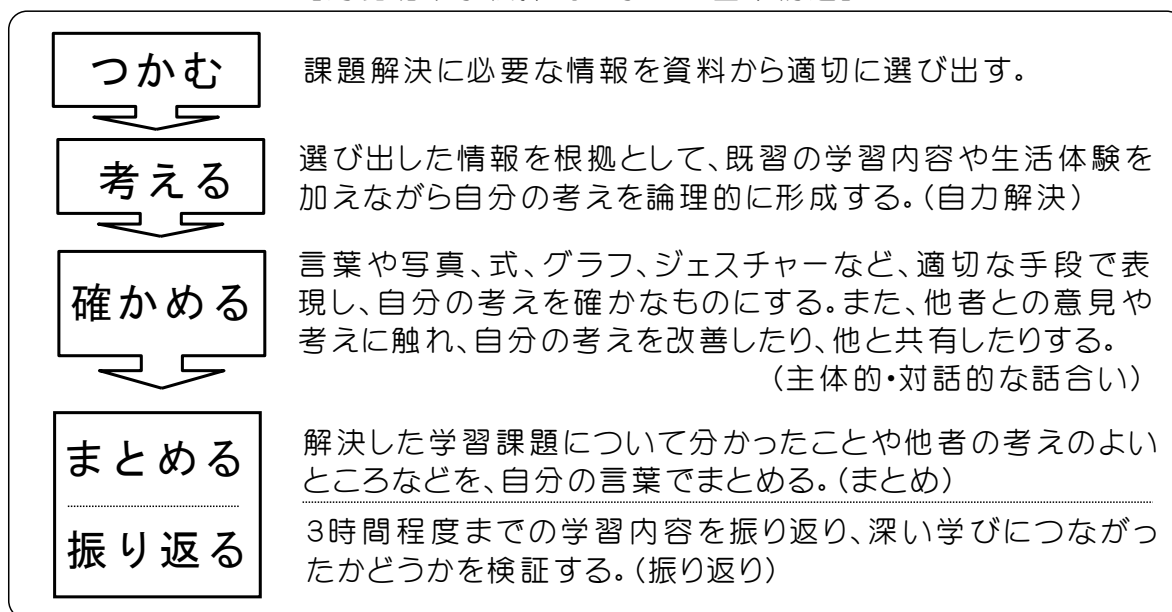
これまでの探究型の授業づくりの学習過程において、主体的・対話的な深い学びのアプローチとしてICT機器を効果的に活用していくことで、目指す資質・能力（課題の解決に向け、積極的に自分の思いを伝える力、他と関わりながら粘り強く取り組む力、課題解決に必要な知識・技能など）が育成されるだろう。各教科等において計画的・継続的に取り組むことで得られた学ぶ喜びの蓄積により、更なる意欲の向上や自信につながり、自己肯定感や自己有用感の醸成が図られるだろう。

## 4 研究の重点と具体的施策

### 研究の重点

- (1) ICT機器を効果的に活用した学習指導
- (2) 基礎的・基本的な知識の習得に向けた取組
- (3) 主体的・対話的で深い学びの充実
- (4) 家庭学習の習慣化と充実に向けた取組

#### 【男鹿北中学校探究型学習の基本構造】



- (1) ICT機器を効果的に活用した学習指導
  - ① 学習の基本構造に沿った学習を進めながら、各教科の特質に応じた活用方法を工夫する。  
(資料の提示、調べ学習や表現・制作活動、話し合いや相互評価の場面、個別学習など)
  - ② ICT機器を活用した授業の相互参観を実施する。
- (2) 基礎的・基本的な知識の習得に向けた取組
  - ① 北中タイムを効果的な活用し、5教科における基礎的・基本的な知識の定着を図る。
  - ② 朝の時間を朝読書だけに留まらず、個に応じた補充学習の時間に充てるなど、柔軟に活用する。
- (3) 主体的・対話的で深い学びの充実
  - ① ICT機器を効果的に活用した協働学習を工夫する。

- (全体で意見を出し合ったりグループで討論したりしながら問題を解決していく活動など)
- ② 主体的・対話的な話し合い活動の充実に努める。  
(話し合う視点の明確化、深まりを実感する手立ての工夫など)

(4) 家庭学習の習慣化と充実に向けた取組

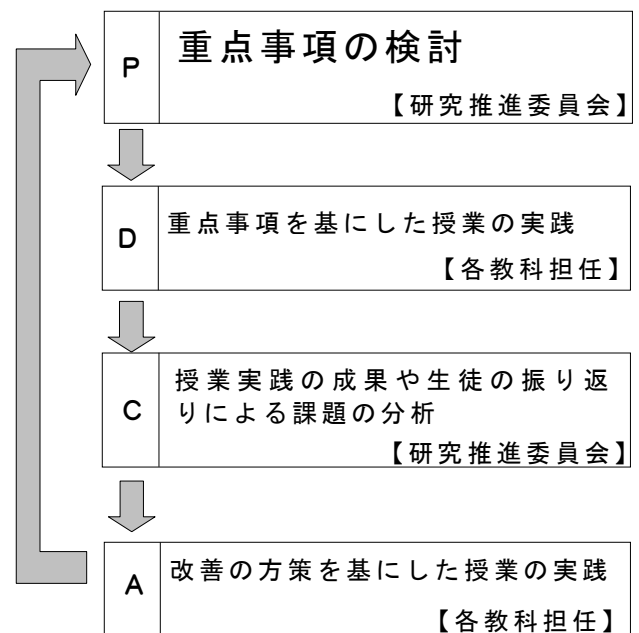
- ① 個に応じた家庭での過ごし方と家庭学習の指導  
(家庭学習計画の作成、諸通信を通じた家庭との連携など)
- ② 授業と結び付けた家庭学習の充実  
(授業の振り返りやまとめと連動した家庭学習、教科担任による家庭学習の助言など)

## 5 検証の手立て

- (1) 諸調査（標準学力検査・全国及び県の学習状況調査）の活用と分析
- (2) 学習意欲等に関するアンケート（7月・12月の年2回実施）
- (3) 授業に関するアンケート（7月・12月の年2回実施）
- (4) 職員による相互授業参観（7月・11月）
- (5) 授業研究会での協議・指導助言
- (6) 定期テストや確認テストなどのデータの蓄積と分析
- (7) PDCAサイクルを通じた研究の見直しと修正

### 検証改善サイクルを機能させるための取組

研究推進委員会において、授業改善や取組状況の把握、改善の方策について協議し、職員会議で共有化を図る。



▲短期間周期の検証改善サイクル